



その6

活動データ 第7回

メニュー：リサイクル学習・牛乳パックで飛行機づくり

日程：11月24日 土曜日

場所：中央公民館

参加：16人(4年生～6年生)



牛乳パックのリサイクル

第7回目となった今回の教室は、自然環境について考えるきっかけとして、牛乳パックのリサイクルについて学び、その後牛乳パックで飛行機を作って身近でできる再利用を体験しました。

はじめに牛乳パックなどの飲料用紙パックは何からできているかを学びました。紙製品なので木材が原料なのは想像できますが、実はこの木材も紙パックを作るために伐採されたものではなく、間伐材や何かの材料として製材されたときに出る半端な部分を使っています。紙パックを作る段階から資源の有効活用が行われていることに、

から色々なものが作られることを学びましたが、後半はいよいよ牛乳パックを利用し飛行機づくりに挑戦です。

今回は1リットルパック1個から飛行機1機を作ります。まずは牛乳パックをのりしる部分から開いて、図面通りに部品取りを行います。この作業がいちばん大変なのですが、子どもたちの様子を見てみると方法が様々。定規を使い図面通りに部品の寸法を牛乳パックに書き写す方法や、図面を洋裁の型紙のように切り取ってから、牛乳パックに写す方法など、ひとつの作業にも個性が表れ感心させられます。

部品取りが終わったら、接着剤やテープを使いながら機体を組み立てていきます。図面通りに切り取った主翼や尾翼を本体に貼り合わせていくのですが、なぜか同じ図面を使って作っているにも関わらず、いろんな形の飛行機が出来上がりました。これも工作の楽しさのひとつですね。

完成した子どもたちからさっそく試運転です。輪ゴムを使って勢いよく飛ばします。遠くまで飛ぶものから、すぐ墜落してしまうものなど仕上がりは様々ですが、リサイクルを体験しながらの手づくりの飛行機にみんな満足そうでした。

子どもたちは感心していました。つづいて、実際に紙パックが1年間にどのくらいリサイクルされているかを学びました。家庭や学校給食などの使用済み紙パックの回収量をみると、約5万6千トンとかなりの量がリサイクルされていますが、これは紙パックの年間出荷量の25・8%でしかなく、もっともリサイクルの意識を高めなければいけないと感じていました。最後にリサイクルされた牛乳パックは何に生まれ変わるかを確認し、リサイクル学習は終了しました。

リサイクルで飛行機づくり

前半のリサイクル学習で牛乳パック



牛乳パックから生まれ変わった飛行機。羽根の曲げ具合で飛び方が大きく変わります。



(右)図面をもとに部品の形を牛乳パックに書き込みます。長さを間違えないよう慎重に。(中)輪ゴムを使って飛ばします。少し見づらいですが、直進後左に旋回するところです。(左)切り取った部品です。8つのパーツを組み合わせて完成。

自然教室メモ

牛乳パックは色々変身

牛乳パックをリサイクルして作られる製品は、トイレトーパーやティッシュペーパーをはじめ、紙ファイル、紙トレー、うちわ、各種パッケージなど400種類以上にも上り、その数は年々増えてきています。回収した牛乳パックをリサイクルして作られた製品のほとんどには、全国統一の「牛乳パック再利用マーク」がつけられていますので、ご家庭にある紙製品を確認してみてください。リサイクル運動は集めるだけでなく、再生品を使用することも重要です。

限りある資源を大切に活用するため、ぜひリサイクルを！



牛乳パックをリサイクルして作られるトイレトーパー。1リットルパック約6枚で1巻き作れます。

